



# Weekly Report

2016～2017年度  
国際ロータリーのテーマ  
人類に奉仕するロータリー

2016～2017年度  
名古屋瑞穂ロータリー会長のテーマ  
さらなる前進

創会 立：1980年(昭和55年)1月10日  
幹 長：八木沢幹夫  
事 事：関谷 俊征  
クラブ 広報委員：星野 一郎  
例 会 日：毎週木曜日PM12:30～  
会 場：ビルトシ名古屋

事 務 局：460-0008  
名古屋市中区栄1丁目3-3 AMMNATビル7F  
T E L：052-211-3803  
F A X：052-211-2623  
M A I L：2760\_nagoya@mizuho-rc.jp  
U R L：http://www.mizuho-rc.jp/

## 故名誉会員 嶺木一夫さんを偲ぶ

### 追悼文

2016～2017年度 会長 八木沢幹夫

嶺木一夫さんが、平成28年10月25日に亡くなりました。1985年～1986年度に名古屋瑞穂RCの会長をされ、当クラブ姉妹提携クラブである台北延平RCに関与されたと伺っています。当クラブただ一人の名誉会員でした。ここ数年は、例会出席が難しい時もありましたが、家族の方の付き添いで出席される事が多いようでした。会話を交わすのは、挨拶程度でした。ただ、私自身、入会后名古屋守山RCにメイキャップで例会出席すると、以前尾頭橋にて木材関係の仕事仲間の方が嶺木さんの事をよく訊ねてくれました。木材関係の需要が駄目になり方向転換をせまられた時の仲間ようです。天寿を全うされ、RCを愛されました。合掌。



ご家族のお写真

### 嶺木一夫さん

#### ロータリーとの歩み

- 1980年1月10日 名古屋瑞穂RC創立と共に入会
- 1985～86年度 名古屋瑞穂RC会長に就任
- 1990～91年度 国際ロータリー第276地区(現第2760地区)名古屋第一分区分区代理(現ガバナー補佐)
- 2013年4月～ 名古屋瑞穂RC名誉会員



認証状

### 略歴

- 大正5年6月4日 愛知県中島郡(現 一宮市)に生まれる
- 昭和4年 父死去に伴い、近藤助三郎・みゆき夫妻のもとで愛知商業学校卒業
- 昭和11年9月 近藤助三郎死去で、丸美(木材業)を継承(20歳)
- 昭和14年 徴兵により中国へ出征し、この間、家業の木材業は休眠(23歳)
- 昭和17年 企業統制整備令により木材業を廃業、現地で井上八重納さんと知り合う
- 昭和18年 中国より帰還し、井上八重納さんと結婚、大同製鋼(株)へ入社(27歳)
- 昭和19年 長男昌行さん誕生、徴兵によりフィリピンへ出征(28歳)間もなく米軍捕虜になる
- 昭和21年 フィリピンより帰還し、大同製鋼(株)へ復職(30歳)
- 昭和23年 友人と設立した木材会社から独立し、丸美木材(株)を創立(32歳)
- 昭和47年1月 商号を丸美産業(株)に変更
- 昭和59年3月 取締役会長に就任
- 平成17年3月 取締役名誉会長に就任
- 平成20年3月 創業者名誉会長に就任
- 平成28年10月25日 永眠(享年101歳)

## 中部経済新聞社の取材 嶺木さんのメッセージ

丸美産業株式会社の屋号と社是は嶺木一夫さんが作られました。「丸美」とは、「和をもって丸くなし、美をもって人の生き方を示す」という意味が込められています。社是は「進取気鋭」「人間尊重」「計画・実行・検討」「サービスの向上」「清く・正しく・公平に」という5つの精神を志すことで、社会の発展に貢献する人材の育成を図りました。また、嶺木さんの好きな言葉は「忍耐と寛容」でした。

自分に厳しく周りの人に思い遣りの心で接する、その人柄を表現した文章が遺されています。中部経済新聞社の取材を受けた時のメッセージをここに紹介します。

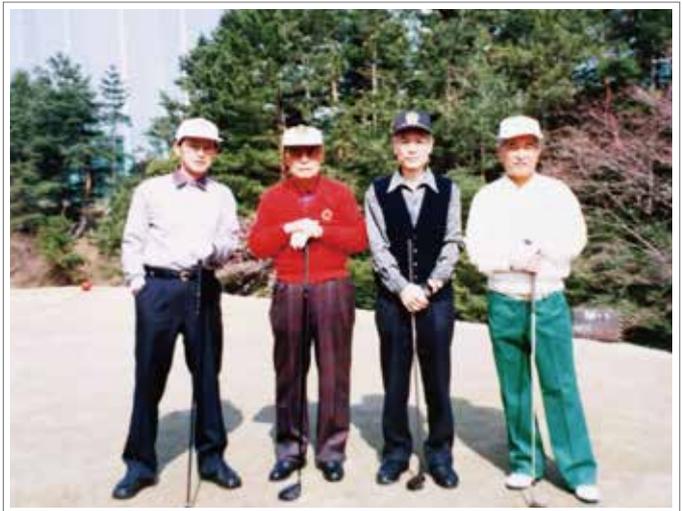
ー以下、中部経済新聞社の取材を受けた時の嶺木さんのメッセージ

「大きい会社よりはいい会社を」。彼の一貫した基本理念である。このため先ず住宅総合商社としての知能と技術あふれる社員集団を作り上げたいと心掛けてきた。そしてそこに彼の優れた先見性と実行力をみることができる。・・・(中略)

彼の人材育成は「企業は社会の公器である」という理念をベースにし、早い段階から具体的な社是を決めて、人間尊重を基本にした進取気鋭あふれる清く正しく公平な社員の輩出を求めているが「仕事に生きがいを感じ、会社に行くのが楽しい社員」が彼の期待する社員像であり、そのためには「居心地のいい会社になりたい」と言うあたり、彼の温かい人間味を感じることができる。（「昭和の創業者(4)より抜粋」）



嶺木 一夫さん



ゴルフ仲間と



長寿記念



米山記念奨学会 表彰状